

シーボルト英語にみるTOEIC試験スコアによる 英語カリキュラムの功罪

上 村 俊 彦

Siebold's English: Pros and Cons of a TOEIC Score-based English Curriculum

Toshihiko UEMURA

1. はじめに

多くの大学では、TOEIC試験スコアを英語学習の数値目標あるいは英語力の評価基準として活用している。本学の国際交流学科（以下、本学科）では、4月の入学時にTOEIC IP試験を入学者に課し、そのスコアは英語科目履修時のクラス分けに使っている。また、英語科目の単位認定制度にTOEFL試験や英検とともにTOEIC試験は活用されている。さらに、TOEIC試験スコアをベースとした英語科目履修制度を取っているために、学生は前期と後期の終了直後に実施するTOEIC IP試験を継続的に受験することが求められている。

本稿では、TOEIC試験を英語学習の数値目標あるいは学生の英語力評価基準として活用することの意義、TOEIC試験スコアに基づいた本学科学生の英語力分析、現行の英語科目履修状況から見えてくる問題点に焦点を絞り考察する。

2. ETSのCEFRマッピング

TOEIC運営委員会（2009a）によると、2008年度国内で実施されたTOEIC試験の受験者総数は1,718,000名（公開試験778,000名、IP試験940,000名）であった。日本英語検定協会（2009）によると、2008年度の実用英語技能検定（以下、英検）の受験者総数は1,221,089名である。TOEIC試験は英検よりも後発であるが、今や英検を上回る受験者を集める日本で最大規模の英語検定試験となった。

TOEIC試験は国内外で実施されている国際的な英語能力試験であるが、その開発研究の母体はTOEFL試験で知られているEducation Testing Service（以下、ETS）である。ETSはヨーロッパで広く受け入れられている「ヨーロッパ言語共通参照枠」を用いて両試験の難易度や試験スコアの位置付けをおこなっている。Tannenbaum & Wylie（2005, 2009）では、「TOEIC試験とTOEFL試験のスコアレンジ、両試験のCan-Do 記述（「...ができる」）をヨーロッパ言語共通参照枠」（以下、CEFR）に内包する試みがおこなわれた。また、Powers, D. E. et al.（2009）では、TOEIC Speaking Writing試験（以下、S/W試験）受験者の取得スコアとS/W試験のCAN-DO記述との整合性を見るために、受験者のS/W試験取得スコアと彼らの「...ができる」という自己判断との相関を検証している。TOEIC運営委員会（2009b）は、2006年12月から2007年3月の間に、S/W試験あるいはTOEICスピーキングテストを受験し、その12ヶ月以内にTOEICテ

ストを受験した日本と韓国の受験者2,064名のスコア関連データである。この相関表とTannenbaum & Wylie (2005, 2009) とを活用すると、S/W試験スコアもCEFR上に位置づけることが可能となる。

CEFR枠組み上に、IELTS試験²⁾をはじめとするイギリスのESL/EFL学習者向けの英語能力試験も位置づけられている。これまで同一の尺度で論じることができなかったアメリカのTOEIC試験やTOEFL試験のスコア体系とイギリスのIELTS試験スコア体系とが、CEFRという共通の参照枠を用いることで相互に比較可能となったことの意義は大きい。本学学生を含むこれらの英語試験受験者は自らの現在の英語能力の確認や今後目指すべき到達レベルを示す指標としてCEFRを利用することが可能となった。

3. TOEIC試験スコアによる単位認定制度

TOEIC運営委員会(2009c)は、全国大学のTOEIC試験スコアによる英語科目単位認定制度の概要をまとめた冊子を提供している。表1は、この冊子からTOEIC試験スコアによる単位認定を実施している九州地区の国公立大学を抽出し、認定対象となるスコアを高得点順に並べたものである。

表1.九州国公立大学TOEICスコアによる単位認定制度

スコア	大学名等	単位数	スコア	大学名等	単位数
900	北九州大 ¹⁾ (国際関係学科)	8	700	琉球大	4
875	九州大 ²⁾	2	675	熊本大	4
860	長崎大	6	650	北九州大(国際関係学科 除く)	4
850	北九州大	4		佐賀大	4
830	琉球大	8		宮崎大	2
800	熊本県大	6	645	熊本県大	2
790	九州大 ²⁾	1		九州大 ²⁾	1
750	北九州大(国際関係学科 除く)	4	640	福岡教育大	2
	北九州大(国際関係学科)	2	630	鹿児島大	4
	佐賀大	6		九州工大	2
九州大 ²⁾	1	熊本大		2	
730	長崎大	2	600	熊本県大(総合管理学部)	1
	熊本大	6		大分大(工学部)	4
	熊本県大	4		大分大(教育福祉学部)	4
	熊本県大(総合管理学部)	2			
	大分大(教育福祉学部)	6			
	大分大(経済学部)	4			
	大分大(工学部)	6			
	宮崎大	4			

1) 北九州大 北九州市立大学

2) TOEIC試験スコアによる評価

NB. TOEIC運営委員会

(2009c: pp.40-41)から作成

表1からも明らかのように、どのくらいのTOEIC試験スコアが当該の英語科目修了レベルとして妥当か、英語科目の認定は何単位まで可能かなど、認定基準や認定される単位数は個々の大学による独自性がうかがえる。

認定制度による単位取得の際は、通常の科目履修と区別するために学業成績表に記号等で「認定」が明示され、評点（A～D、あるいは秀・優・良・可など）が付かない場合が多い。このために学業成績のGPA評価を採用している大学では、本来、得意科目である英語の評点が付かないために認定制度を活用した学生に不利なGPA評価となる。この点を考慮してか、一部の大学では「認定」の代わりに評点による評価をおこなう大学もある。³⁾ 表2は長崎大学の学生便覧（2009年版）に記載されたテストスコアによる評価基準である。⁴⁾ 同大学の全学教育英語科目として取得可能な単位数は最大6単位である。同大学の教務事務担当者に確認したところ、学生が外部の外国語試験による単位取得を希望する場合、取得したスコアによって評点（AA～C）が決定されている。

表2．長崎大学全学教育外国語技能検定試験等の学習成果による単位認定基準（英語）

認定単位数	STEP		TOEFL iBT		TOEFL pBT		TOEIC	
	準1級	1級	61点以上	100点以上	500点以上	600点以上	730点以上	860点以上
2単位								
6単位								

NB. 長崎大学（2009：p.47）をもとに作成。

TOEIC試験スコア高得点者には、大学全学教育課程の全英語科目の免除も可能かについては各大学で見解の相違があるだろう。ちなみに、本学科の卒業に要する英語科目の単位数は22単位である。仮に最大4単位の認定申請をおこなっても、本学科生は残り18単位相当の英語科目の履修が必要となる。大学レベルの英語運用能力を学生が習得するために、自分のニーズにあった英語科目の選択履修が可能である。

4．本学科学生のTOEIC試験スコア

本学科学生は、1年入学時の試験を手始めとして3年前期終了までに都合6回のTOEIC試験受験が求められている。2005年度～2009年度に本学科に入学した学生について、各回のTOEIC試験受験者数を調査してまとめたものが表3である。3年前期終了時の受験者数は50名前後で、本来の各学年在籍者数と比べて少なくなっている。すでに上村（2008：p.233）でも指摘したように、多くの本学科学生は2年次後期終了時には卒業に要する英語科目の最低単位数（22単位）以上を取得している。3年次前期終了時のTOEIC試験受験は、これまで卒業要件に係る英語科目の単位取得が目的で受験してきた学生にとっては、「すでに卒業要件を満たしており不要」との判断がなされる可能性がある。この点については、本学科在籍者を対象とする英語カリキュラムに関するアンケート調査で本年度中に確認予定である。

表3 . TOEIC IP試験 受験者数の推移

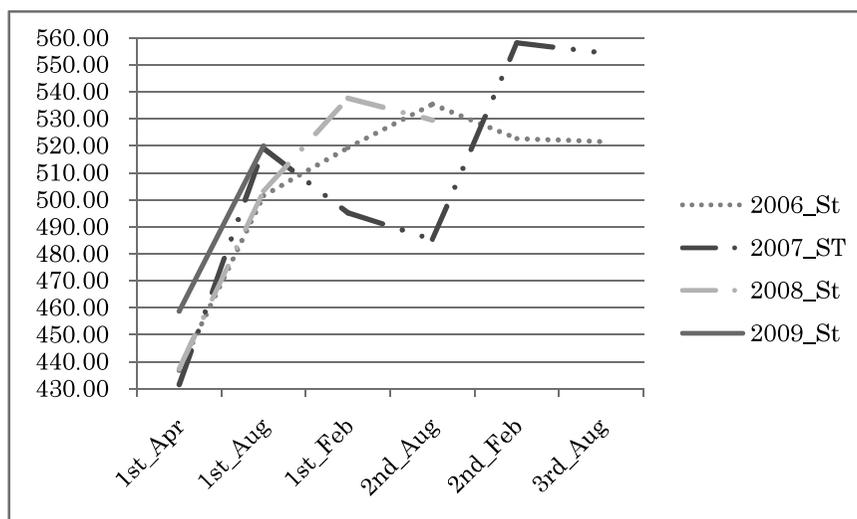
	入 学 年 次				
	2005年 (85名)	2006年 (84名)	2007年 (85名)	2008年 (86名)	2009年 (81名)
1年次4月	85	84	85	86	81
1年次8月	80	83	84	82	75
1年次2月	75	77	71	81	
2年次8月	74	66	63	70	
2年次2月	58	37*	68		
3年次8月	51	47	47		

* 2年次後期終了時のTOEIC試験と集中講義との日程とが重なったために、例年と比べて20～30名少ない。

4 . 1 TOEIC試験平均点の推移

現在、本学科に在籍する学生（2006年度～2009年度入学者）の入学時から3年次前期までのTOEIC試験平均スコアの推移について調査をおこなった。⁵⁾ グラフ1は、年次ごとの平均スコア推移を示している。

グラフ1 TOEIC試験平均スコアの推移（入学年次別）

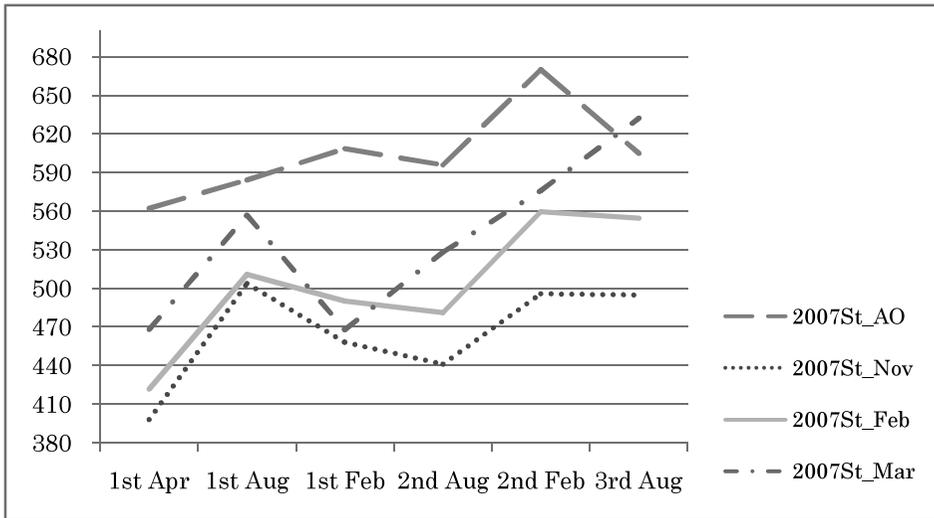


グラフ1からも明らかなように、1年次前期終了時（1st_Aug）にはすべての入学年度で平均点が70点前後の上昇している。1年次後期終了時の平均スコアは、2006年度・2008年度の入学者については上昇、2007年度入学者については20点強の下降が認められる。ただし、その後の平均点の推移を見ると、前者のスコアは1年次後期または2年次前期終了後の次期から伸び悩みの傾向が認められるのに対して、2007年度入学者の2年次については前期終了時から後期終了時にかけて平均スコアが70点強の上昇となっている。一度下降した平均スコアが再度上昇に転じた2007年度入学者については、その要因について調査中である。なお、2006年度入学者の2年次後期終

了時におけるTOEIC試験受験者数は37名で学年の半数に届いていない。(表3参照)

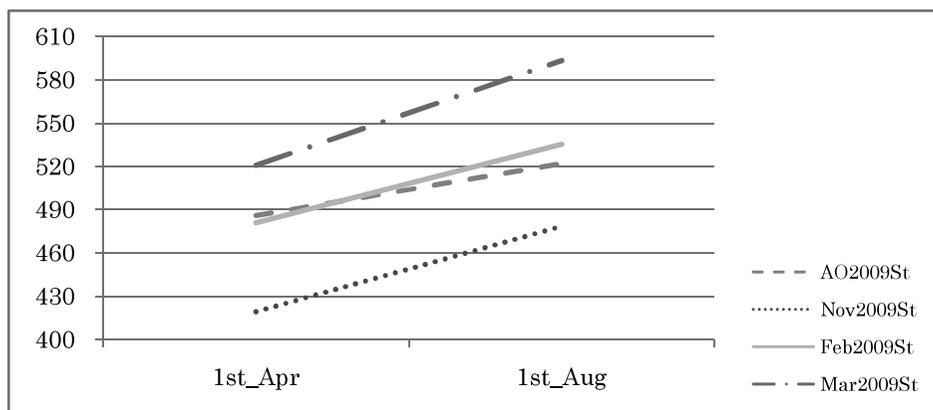
本学科学生のTOEIC試験スコアの推移を入学種別に調査すると、2006年度・2007年度・2008年度の入学者については、AO入試による入学者の平均点が入学時から現在まで最も高得点となっている。AO入試の応募時に英検2級または同等の英語力を有することが出願の要件となっていることから、AO試験による入学者の入学後の英語力については一定水準が期待できる。(ただし、英検要件は、中国語分野のAO入試応募者には適用されない。)2006年度・2007年度・2008年度の入学者の平均スコアには、もう1つの共通点がある。特別推薦入試による入学者のスコアは、他の3つの入試による入学者よりも平均スコアが低い。

グラフ 2 a 2007年度入学者(入試区分別)のTOEIC試験スコアの推移



グラフ 2 aは、2007年度入学者のTOEIC試験スコア平均を入試区分ごとにまとめたもの。なお、3年次前期終了時(3rd_Aug)のTOEIC試験については、85名の在籍者中47名が受験するに止まった。入試区分の受験者数は、AO入試(2007St_AO)7名中4名、特別推薦入試(2007St_Nov)20名中8名、2月入試(2007St_Feb)49名中33名、3月入試(2007St_Mar)8名中2名で、他と比べてこの時期の平均点の信頼性はやや低くなっている。

グラフ 2 b 2009年度入学者（入試区分別）のTOEIC試験スコアの推移



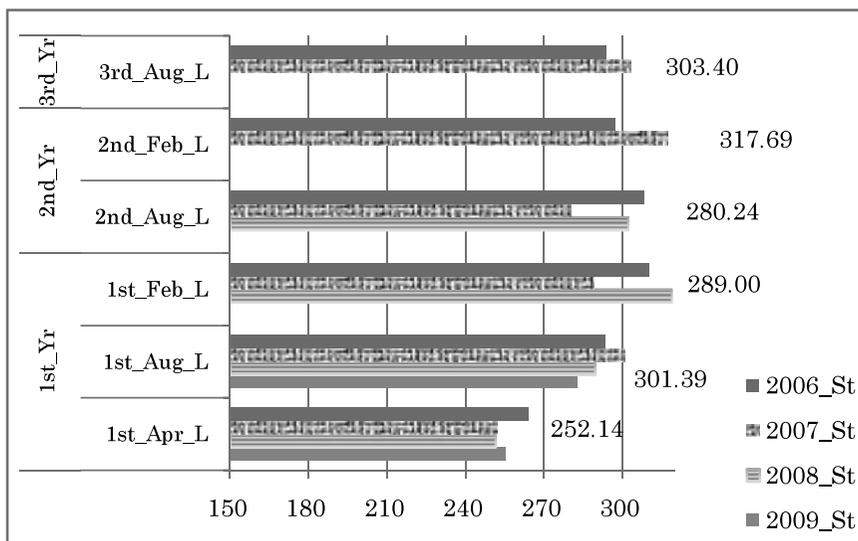
グラフ 2 bは、2009年度入学者の1年次4月（1st_Apr）と1年次8月（1st_Aug）の入試区分別の平均スコアである。2009年度入学者（現在1年在籍者）のTOEIC試験スコアは、高い順に3月入試 > 2月入試 > AO入試 > 特別推薦入試となった。2009年度のグラフは、他学年（2006年～2008年度入学者）と同様に特別推薦入試が最下位となっているが、AO入試は第1位の位置を3月入試に譲り第2位を2月入試と競うという独自のパターンとなっている。（AO入試中国語分野で応募して合格した学生は、入学後英語科目の履修が卒業要件とされていない。このため計算時には有効スコアとしてカウントしていない。）

3月入試による入学者の平均スコアは、グラフ 2 aでもAO入試の次の2位の位置にある。比較的に高い競争率となる3月入試を制して入学する学生は、その後のTOEIC試験スコアでも健闘している。（3月入試による入学者の数は、2006年度の15名を除くと毎年10名前後で推移している。）

4.2 リスニングスコアvs.リーディングスコア

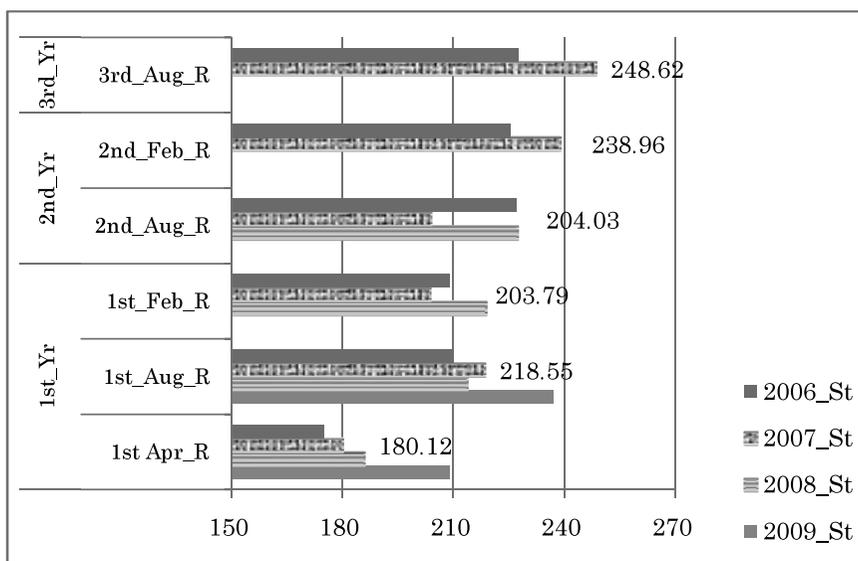
TOEIC試験はリスニング問題とリーディング問題とによって構成されている。グラフ 3aとグラフ 3bは、入学時から3年次前期終了時までのリスニング、リーディング、それぞれの平均スコアの推移を示す。

グラフ 3a TOEIC試験（リスニング）平均スコアの推移



リスニングスコアは、各学年とも1年前期終了時から±20点の範囲内に止まっている。1年次後期終了時から大きなスコア向上が認められない点は、今後の検討課題である。ちなみに、TOEIC運営委員会（2009b: p.4）によると、2008年度に高校以上の教育機関で受験した学生（42,738名）のうち、TOEIC試験（リスニングスコア）で295点以上を取得した学生は全受験者中上位から22.2%以内の位置にある。

グラフ 3b TOEIC試験（リーディング）平均スコアの推移



リーディングスコアは、1年次前期終了時に210点を超えているが、その後240点を突破しているのは2007年度入学者のみである。4.1で見た2007年度入学者の2年次前期終了時から後期終了時における急激なスコア上昇には、リスニングスコア37点(2年次8月280.24点 2月317.69点)とリーディングスコア34点(2年次8月204.03点 2月238.96点)が寄与している。

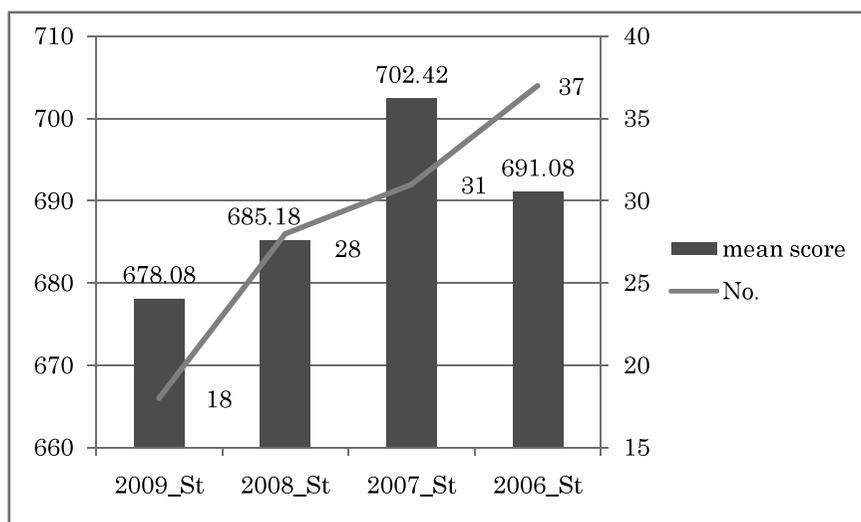
TOEIC運営委員会(2009a: p.4)によると、2008年度に高校以上の教育機関で受験した学生(432,738名)のうち、TOEIC試験(リーディングスコア)で245点以上を取得した学生は全受験者中上位から20.7%以内の位置にある。

4.3 600点超のTOEIC試験受験者

本学科学生の「全員がTOEIC試験スコア600点をめざす」という数値目標が、本学の中期計画目標に記載されている。TOEIC運営委員会(2009a: p.4)によると、2008年度に高校以上の教育機関で受験した学生は432,738名。その中で、595点以上のスコアを取得したのは55,525名(全受験者比18.5%)であった。中期計画は5カ年計画で現在4年目にあたる。本学科学生は現時点で目標をどの程度達成しているのだろうか。

本学学生(2006年度~2009年度入学者)の取得したTOEIC試験スコアの最高得点を調査し、600点以上を取得した学生数とその平均点とをまとめたものがグラフ4である。

グラフ4. TOEIC試験最高スコア(600点を超える学生数とその平均スコア)



600点を超えた学生の学年ごとの人数は、2009年度入学者18名(学年比23.38%), 2008年度入学者28名(学年比33.33%), 2007年度入学者31名(学年比36.90%), 2006年度入学者37名(学年比45.12%)であった。ただし、私費留学生と中国語専修で英語を履修しない学生については、本来の在籍者数から引いた学生数で計算している。学年が上がるとともに600点超の学生数は上昇しているが、4年次でも全体の50%に届かない数値となっている。目標達成のためには、今後更なる努力が必要である。

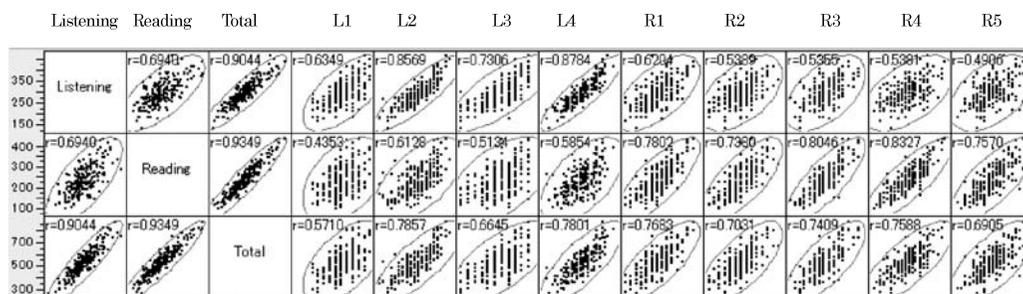
文部科学省は、2003年3月31日『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画』を策定し、中高の教育現場では様々な取り組みがなされた。この「行動計画」では、中学校3年生で英検3

級以上、高校3年生で英検準2級以上の英語能力取得が目標とされた。すでにこの「行動計画」は実施期間が終了しており、2007年度の実績が公表されている。「英検3級以上」については、調査対象となった中学校10,029校の3年次在籍者1,099,792名中、目標を到達した者は356,011名(32.4パーセント)。「英検準2級以上」については、調査対象となった高校3,710校の3年次在籍者746,016名中、目標を到達した者は225,911名(30.3パーセント)であった。⁶⁾ 本学4年次在籍者中45.12%がTOEIC試験スコア600点突破という数値は、文部科学省が公開したこれらの達成割合と比較すると十分評価に値するものとなっている。

4.4 TOEIC試験スコアレポート

TOEIC試験終了後、国際交流センターにはTOEIC運営委員会から試験スコアレポートが届けられる。提供される試験データは、各受験者の1)リスニング合計得点、2)リーディング合計得点、3)総合得点、4)パートごとの正解率(リスニングI, II, III, IV; リーディングI, II, III, IV)、合計12項目である。2009年8月に本学で受験した受験者212名(本学科1年77名、2年66名、3年48名、4年14名; 他学科4名)について上記12項目の相関について調査を行った。グラフ5は、「リスニング得点」、「リーディング得点」、「総合得点」と各パートとの相関を示す。

グラフ5 TOEIC IP試験(2009年8月実施)の項目別スコアの相関



総合スコア(Total)とその他11項目の相関関係を見ると、総合スコア・リスニングスコア(Listening)(0.9044)、総合スコア・リーディングスコア(Reading)(0.9349)、総合スコア・各リスニングパート正解率(L1: 0.5710, L2: 0.7857, L3: 0.6645, L4: 0.7801)リーディングスコア・各リーディングパート正解率(R1: 0.7683, R2: 0.7031, R3: 0.7409, R4: 0.7588, R5: 0.6905)($p < 0.001$)であった。リスニング第1パート(以下, L1)は、ピクチャーの状況を英語で描写する問題10問であるが、総合スコアとの相関が最も低い数値となった。SAS社の統計ソフトを用いて行った相関の計算時には、リスニング・リーディングの各パートについては正解数やその得点ではなくて正解率が使われている。換言すると、相関で調べたのは各パートの問題数と総合得点の関係ではなくて、各パートの正解率と総合得点との相関である。L1との相関係数が最も低く、その他のパートとは0.7前後の範囲に収まっていることから判断すると、L1で高得点を取った場合でも、その受験者のTOEIC試験スコアが必ずしも高得点とならない可能性を示唆している。

4.5 TOEIC試験スコアとCriterionライティング

本学科学生の英文作成能力養成の演習教材として、ETS Criterion（オンラインライティングソフト）が利用されている。⁷⁾ 2009年度入学者については、7月にCriterionを用いた英文テキスト作成の課題を出した。Criterionが学生英文ライティングに自動評価したライティングレベル（1～6レベル、ただし最高レベル6）と4月と8月のTOEIC試験スコア（総合得点、リスニング得点、リーディング得点）との間の相関を調査した結果、表4からも明らかのように強い相関は認められなかった。

表4. CriterionレベルとTOEIC試験スコアの相関

	総合得点	リスニング	リーディング
4月TOEIC試験	0.3942	0.3312	0.3949
8月TOEIC試験	0.3675	0.3516	0.3404

相関係数は、SAS JMP7.02のSpearmanの順位相関

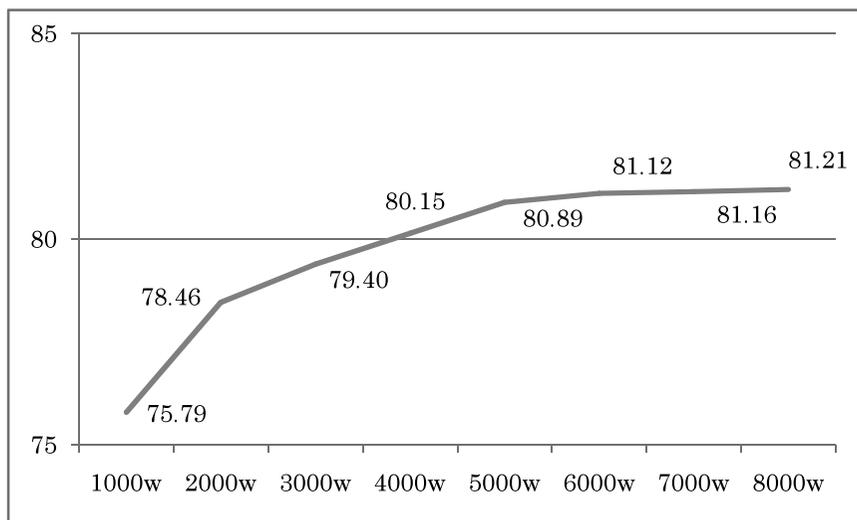
ちなみに、Criterionによるレベルチェックで2009年度学生が取得できたレベルの最高はレベル5（5名）で、該当の学生のTOEIC試験スコア（8月実施分）は、最低580点、最高815点であった。実際にCriterionでレベル分けされた学生の英文ライティングを見ても、TOEIC試験高得点取得者のものが語彙、統語構造、パラグラフの構成面で優れているという印象は得られなかった。この観察については、今後、実証的な検証作業をおこないたい。

表5. 学生英文テキストの使用語彙

	2000w	3000w	4000w	5000w	6000w	7000w	8000w
異なり語	130	46	32	19	11	4	5
総語数	291	102	82	81	25	4	6

提出された学生英文ライティングから成る英文テキストを1つのコーパスとして集約した。（以下、学生コーパス）WordSmith Tools V5（英文テキストの語彙分析ソフトウェア）を用いて学生コーパスの語彙分析を行ったところ、総語数10,902語、異なり語1,192語であった。使用語彙の分布をJACET8000語彙表（大学英語教育学会が策定した出現頻度順基礎語彙表）を基準として見ると、1000語レベル（最も出現頻度の高い1000語）に含まれる「異なり語」は460語（総語数ベースで8,263語）であった。表5は、2000語レベル以上について使われた「異なり語」の数、その延べ数（「総語数」）をまとめたものである。1000語レベルの語彙がコーパスを構成する全語数に占める比率は、「総語数」ベースでは75.79%、「異なり語数」ベースでは38.59%であった。

グラフ6 . 2009年度学生の使用語彙 (JACET800ベース)



グラフ6からも明らかなように、総語数については、JACET8000の1,000語～4,000語レベルの語彙で、学生コーパスの80%がカバーされている。なお、1000語レベルの語彙ですでに全体の75%超がカバーされていることに注目したい。1000語レベルの語彙のみではTOEIC試験で高得点を望めないが、今回の学生英文ライティングでは主要な発信語彙となっている。学生が見たり聞いたりして意味が確認できる認知語彙と、実際に書いたり話したりするときを使う発信語彙との間には大きな落差がある。

5 . 現行英語カリキュラムの課題

本学科では、「国際関係コース」「文化コミュニケーション・コース」の2コースによる緩やかなコース制を採用し、学生が所属するコースから30単位、他コースから12単位を取得することを卒業の要件としている。上村(2008:pp.233-235)では、学生の英語科目の単位取得状況、TOEIC試験スコアによる履修要件がある英語科目の履修状況について考察した際にも指摘しているが、本学科所属の多くの学生は2年次終了時に英語科目を31単位～37単位取得している。この単位数は、全学教育「英語」としては多め、専門英語としては不十分な単位数となっている。しかしながら、卒業要件を満たしながらさらに英語科目を履修することが可能である。

「国際関係コース」選択者は、英語科目をさらに20単位卒業要件枠として履修できる。所属しないコース配置科目(選択必修)12単位、「選択科目」としての8単位をすべて英語科目履修に振り分けることで20単位履修が可能となる。「文化コミュニケーション・コース」については、専門領域30単位すべてを英語科目履修に振り分けることが可能である。しかしながら、本学科では卒業までに132単位を卒業までに取得すること義務付けられているが、上村(2008)でも言及したように本学科生が最終的に取得する英語科目数は多くの場合40単位台に止まっている。

数名の学生に確認したところ、「履修したくても、TOEIC試験スコアのために履修できない」という声が返ってきた。「文化コミュニケーション・コース」で英語や関連領域を主たる専攻にすることを希望する学生でも、その多くは1年次、2年次時点でTOEIC試験スコア600点に到達

していない。現行カリキュラムでは、英語力を養成する科目編成をめざしているが、600点が学生の英語科目履修の障害要因となり、実際の履修を難しくしている。このジレンマは、学科カリキュラムを見直す際には最優先課題として取り組むべきである。

6. 終わりに

本学は1999年の開学以来、継続的に教育環境の整備に努めてきた。その結果、近隣の近接学科を展開する伝統ある諸大学と入試レベルで肩を並べるところまで来ている。⁸⁾ 本学の更なる向上のためには、これまでの英語強化のための実践とその成果の見直しは不可欠であり、本稿の目的はまさにその点にあった。本学科の「英語強化」は、学生の身につけるべき「学士力」の向上に向けた取り組みとして今後も継続すべき課題である。これまで見てきた本学科学生の英語学習の成果分析は、次期中期計画の「英語強化」の指針を検討する際に活かされることを願っている。

注

- 1) Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment http://www.coe.int/T/DG4/Linguistic/CADRE_EN.asp
- 2) International English Language Testing System <http://www.ielts.org/default.aspx>
- 3) 九州大学、長崎大学、大分大学工学部では、「単位認定」時にスコアによる成績評価が記載される。例えば、九州大学では学生の取得したTOEIC試験スコアによって、645～729点「英語IIB」(80点)、730～789点「英語IIB」(90点)、790～874点「英語IIB」(90点)・「英語IIIB」(80点)、875点以上「英語IIB」(90点)・「英語IIIB」(90点)となる。
- 4) 長崎大学の外国語履修要件は、10単位(既習外国語(英語 6単位)+初習外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目選択 4単位)。ただし、教育学部(小学校教育コース多文化理解実践専攻を除く)と医学部保健学科の外国語履修要件は、8単位(既習外国語:英語 6単位+初習外国語2単位)
- 5) TOEIC試験スコアとセンター入試英語の関係についても検討した。センター試験英語得点と1年次4月実施のTOEIC試験スコアについては、最低0.3877(2007年度入学者)、最高0.686(2009入学者)となった。(p<0.001)
- 6) 文部省(2008a)によると、調査対象学校数10,029校の中学校3学年次在籍の生徒は1,099,792名。そのうち英検3級以上の取得者又は同程度以上の英語力を有すると回答のあった生徒数は356,011名(32.4パーセント、前回33.7パーセント)(うち英検3級以上の取得者は201,624名、英検3級と同程度以上の英語力を有する者は154,387名)。文部省(2008b)によると、調査対象学校数3,710校の高校3学年次在籍の生徒は746,016名。そのうち英検準2級以上又は英検準2級と同程度以上の英語力を有する者は225,911人(30.3パーセント、前回27.8パーセント)。
- 7) ETS Criterion Online Writing Evaluation Service (<http://criterion28.ets.org/cwe/index.php>)は、本学の英語ネイティブ教員が担当するライティングクラス(Basic Writing(1年後期必修)、Essay Writing(TOEIC試験スコア500点以上)、Academic Writing(TOEIC試験スコア650点以上))や日本人英語教師が担当するその他のクラスで使用されている。
- 8) 大手4大模試(河合塾、駿台予備校、代々木ゼミナール、ベネッセコーポレーション)によると、本学科の難易度は表6の通りである。この結果を九州の公立大学(北九州市立大学(経済・文・法)、福岡県立大学(人間社会)、福岡女子大学(文)、熊本県立大学(文)、宮崎公立

大学（人文）の難易度と比較した場合，若干の相違が認められるものの概ね同程度と判断できる。

表 6 . 大手 4 大模試難易度一覧

	河合塾	駿 台	代ゼミ	ベネッセ
国際情報(前)	64.6%	58	67%	56
国際情報(後)	73.8%	57	72%	58

NB.毎日新聞社（2009： p.166）からの引用

参 照 文 献

（URL情報は，2009年10月11日時点のもの）

- Educational Testing Service (2009) Criterion Enhancements July 2009 v9.1 .
<http://criterion28.ets.org/news/Criterion%20v9%201%20Enhancements%20for%20Customer%20Information%202009%2007%2030.pdf>
- 国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会（2009a）「TOEICテストData & Analysis 2008」東京：国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会 <http://www.toeic.or.jp/toeic/pdf/data/DAA2008.pdf>
- （2009b）「TOEICテストとTOEICスピーキングテスト・ライティングテストのスコア比較表」東京：国際ビジネスコミュニケーション http://www.toeic.or.jp/sw/pdf/score_comparison_list.pdf
- （2009c）「TOEICテスト入学試験・単位認定における活用状況」東京：国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会
- 毎日新聞社 2009 サンデー毎日臨時増刊 『2010年度版 展望と対策 大学入試に勝つ！』東京：毎日新聞社
- 文部科学省（2003）「英語が使える日本人」の育成のための行動計画 東京：文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/03/03033101.htm
- （2008a）「英語教育改善実施状況調査（平成19年度）」主な結果概要（中学校）」東京：文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/03/08031920/003.htm
- （2008b）「英語教育改善実施状況調査（平成19年度）」主な結果概要（高等学校）」東京：文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/03/08031920/005.htm
- 長崎大学（2009）全学教育平成21年度学生便覧 長崎：長崎大学
- 日本英語検定協会（2009）「過去3年間の年度別受験状況」東京：日本英語検定協会
<http://www.eiken.or.jp/situation/last3year.html>
- Powers, D. E. et al . (2009) “ The TOEIC Speaking and Writing Tests: Relations to Test-taker Perceptions of Proficiency in English, ” New Jersey: Education Testing Service .
<http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RR-09-18.pdf>
- Scott, M . (2007) WordSmith Tools 5.0 , Oxford:Oxford University Press .
http://www.oup.com/elt/catalogue/guidance_articles/ws_form?cc=global
- Tannenbaum, R. J. & Wylie, E. C . (2005) “ Mapping English Language Proficiency Test Scores

Onto the Common European Framework, " New Jersey: Education Testing Service .

<http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RR-05-18.pdf>

————— (2008) " Linking English-Language Test Scores Onto the Common European Framework of Reference: An Application of Standard-Setting Methodology " New Jersey: Education Testing Service .

<http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RR-08-34.pdf>

上村俊彦 (2008) 「シーボルト英語の現状と展望」『研究紀要』第9号 長崎：長崎県立大学国際情報学部 pp.231-240.